議会通信第55号（2022年 春号）

福岡市議会議員

田中しんすけ

胸を張って
元気よく!!
今日も!
立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan

令和4年度予算議会
30年後の理想の未来を提案！
その実現に向けて徹底討論しました!!

掲載記事

1. 条例予算特別委員会・総会質疑（議会質問）
2. 今季も頑張りました！田中事務所第30期インターンシップ（政治活動）

変異を繰り返すコロナウイルス感染症への即応と福岡経済・雇用の維持回復策を質す！

代表質疑［3月2日］ **落石 俊則（東区）**

新型コロナウイルスの**予期せぬ感染状況に対応するための保健所体制の強化とコロナ禍で傷ついた暮らしや経済の維持回復に向けた施策が不可欠**であることから今後の対策を要望。市長から「ワクチン接種の促進とともに、感染動向に応じて機動的に対応できる保健所体制の強化に今後とも取り組む」、「失業・解雇については、オンライン合同会社説明会や就労相談窓口での支援の他、国や県との連携等により、相談体制の確保に努める」との答弁をえました。

さらに「会派基本政策2019」を基に、公共施設等のバリアフリーの拡充やあらゆる災害を見据えたまちの強靭化、地球温暖化対策の推進等、56項目の政策提案を行い、市政に反映されるよう質しました。

代表質疑のポイント

『会派基本政策2019』に基づき政策提案

令和４年度予算の審議にあたり、私たちは髙島市政に対して厳しいチェックを行うとともに、会派が主張する「福岡市のめざすべき都市像」について、**生活保障戦略・成長戦略・地域主権戦略・共生戦略**の四つの視点から様々な政策提案を行いました。

中でも、保育等の暮らしに必須な分野の環境改善、障がい者が自らの経験を活かせる就労支援、重層・複合的な困難を抱える市民への支援、急増する自転車と歩行者の双方の安全確保、都心部から交通空白地に至るまでの公共交通を軸とした交通政策の再構築、CO2削減に必要なプラスチックゴミの削減策や緑化の促進、新条例に基づく地域コミュニティ活性化計画の策定など、新年度予算への反映を求めました。

地域コミュニティ活性化推進計画の策定を！

補足質疑［3月4日］ **池田 良子（西区）**

参加者の固定化や担い手不足は町内会·自治会共通の課題。活動しやすい環境づくりや支援を求める地域からの多くの声に応え、福岡市共創による地域コミュニティ活性化条例案が提出されました。自治協議会や町内会、市民の役割をはじめ市の責務が示されたことを受け、市の地域支援策がどのように強化されるのかを質し、**地域コミュニティの活性化に資する施策を総合的・計画的・段階的に展開すべく推進計画の策定**を求めました。

福岡市は17年前から「市役所での就労経験を活かし民間企業への就労につなげる」ことを目的に、障がいのある人を対象とした就労制度を導入しています。本制度を通じた民間への就労移行等がますます拡大するよう求めました。

誰ひとり取り残さない行政サービスの実現へ

補足質疑［3月7日］ **成瀬 穫美（南区）**

2000年以降に成立した法律のうち、50本以上が地方自治体に相談窓口の設置を義務づけています。これからの行政サービスは、本格的なDX時代を迎える一方、職員の業務は専門的な知識や高いコミュニケーション能力を要する業務に特化されます。本市の多くの窓口で働く**会計年度任用職員の処遇改善も含め、質の高い行政サービスを維持していくために、担い手育成に力をいれるよう強く求め**ました。

多様化·複雑化する女性の自立への支援について、全庁挙げての積極的な関わりとNPOや市民団体との連携や共働も含めた網羅的な取り組みを要望。また、コロナ禍の「密」の回避や環境負荷への配慮から急増した自転車の交通安全対策についても質問しました。

都心部への循環型LRT導入を検討せよ！

総会質疑［3月18日］ **田中 しんすけ（中央区）**

自動車交通量の増加による全市的な交通渋滞を解消するため、抜本的な駐車政策の転換やバス路線の再編·効率化、シェアサイクルの更なる拡充を求める一方で、**「将来的には、天神～博多～ウォーターフロント地区をつなぐ都心循環型のLRT（次世代型路面電車）の導入を検討すべき」**と提案しました。

これに対して市長は**「車線の減少で既に混雑している道路交通へ更なる負荷をかけるなど、（LRT導入には）様々な課題がある」**と、現時点では慎重な姿勢を示しました。引き続き、都心へ流入する自動車の量を減らすための施策を提案しながら、人と環境に優しい公共交通として再評価されているLRTの導入実現に向けた検討を重ねていきます。

保育現場の環境改善と休日保育の拡充求む

総会質疑［3月22日］ **ついちはら 陽子（東区）**

2021年の国内の出生数は84万2897人で、6年連続の過去最少となりました。急速な少子化が進む一方で、女性の就業者数の増加に伴い、保育の必要性はますます高まっていることから、改めて保育環境の改善を提案。正規保育士の平均勤続年数は、全国7.7年に対し福岡市は6年。保育の職場が多くの保育士にとって働き続けることができない環境であることを指摘し、改善を求めました。

コロナ禍の暮らしを支えるエッセンシャルワーカーの皆さまから、休日も安心して預けられる環境を求む声を伺い、多様な保育ニーズに対応するため**休日保育の拡充**を求め、令和4年度から民間保育所2か所が新たに加わり、**市内９カ所の保育所で実施**されることとなりました。

EV普及のため集合住宅駐車場に充電設備を！

総会質疑［3月22日］ **井上 麻衣（城南区）**

本市は国よりも10年早い「2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロ」をめざしています。その実現に向け、中でも市内のCO2排出量の約32%を占める自動車対策として、電気自動車の普及推進について質しました。集合住宅の割合が高い本市の特徴に着目し、マンションの新築時に充電設備付きの駐車場設置を要件にするなど、**特に集合住宅への電気自動車普及対策の実施を求めました。**CO2の吸収源として重要な森林について、スギやヒノキといった針葉樹が広葉樹に比べ炭素吸収量が多く、樹齢も高齢になるほど吸収量が下がるというデータを提示。40年以上の**高齢の樹木が8割を占める本市の森林においては、樹種や樹齢に着目した施策、計画の必要性を指摘**しました。

コロナ禍の傷みを踏まえ次代を見据えて！

討論［3月25日］ **近藤 里美（南区）**

令和4年度の予算審議にあたり、会派が主張する「福岡市のめざすべき都市像」について、①生活保障（一人ひとりの命と幸せを大切にする社会）、②成長（人と技術の結びつきが新たな価値を生み出す創造都市）、③地域主権（市民が自ら発言し議論し決定する仕組みづくり）、④共生（一人ひとりの生命と尊厳を守り誰もが安心できる共生社会）という4つの視点から様々な政策提案を行ないました。

来年度は平成24年の福岡市基本計画策定から10年を迎えます。**コロナ禍で傷んだ経済や暮らしへの対応**をはじめ、**脱炭素化や新たな交通政策などの長期的な視野で取り組むべき重要課題も踏まえ**た、新たな福岡市の姿や目標を示す基本計画の策定を求めました。

① 議会質問

交通政策が変われば、都市構造が変わる！
「公共交通を主軸とした総合交通体系の再構築について」

自動車交通量の減少に向けた様々な取り組みを求める！

心部における駐車政策の考え方
博多駅
博多駅区500m圏域

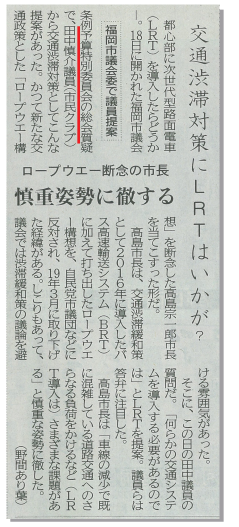
今回の質問では、「30年後の福岡市の理想の交通環境」を見据えて、その実現のために必要な施策を提案しました。自動車交通量を劇的に減らすためには、都心部だけの取組みでは不十分であり、体系的な施策メニューと意欲的な目標設定が必要であるという点を指摘しました。

福岡市は2040年に**「温室効果ガス排出量実質ゼロ」**を目指しています。そのためには、市内全排出量の約32%を占める自動車部門の削減が急務です。全市的に自動車交通量を減らす取り組みに、正面から向き合う必要があります。

将来的には都心部をつなぐ「循環型LRT」の導入を！

全市的に自動車交通量を減らす取り組みと関連して、将来的には天神～博多～ウォーターフロント地区をつなぐ**「都心循環型LRT（次世代型路面電車）」**の導入を提案しました。近年、世界的にLRTを導入する事例は増え続けており、他都市においては、景観保護も踏まえた公共空間の見直しといった、まちづくりのコンセプトを実現する手段として整備されています。

これに対して市長は**「車線の減少で既に混雑している道路交通への更なる負荷をかけるなど課題が多い」**と、現時点では慎重な姿勢を示しました。引き続き、人と環境に優しい公共交通として再評価されているLRTの導入実現に向けた検討を重ねていきます。



交通渋滞対策にLRTはいかが？

都心部に次世代型路面電車（LRT）を導入したらどうか―。18日に開かれた福岡市議会

福岡市議会委で議員提案

条例予算特別委員会の総会質疑で、田中慎介議員（市民クラブ）から交通渋滞対策としてこんな提案があった。かつて新たな交通政策とした「ロープウエー構

ロープウエー断念の市長

慎重姿勢に徹する

想」を断念した高島宗一郎市長を当てこすった形だ。

高島市長は、交通渋滞緩和策として2016年に導入したバス高速輸送システム（BRT）に加えて打ち出したロープウエー構想を、自民党市議団などに反対され、19年3月に取り下げた経緯がある。しこりもあって、議会では渋滞緩和策の議論を避ける雰囲気があった。

そこに、この日の田中議員の質問だ。「何らかの交通システムを導入する必要があるのでは」とLRTを提案。議員らは答弁に注目した。

高島市長は「車線の減少で既に混雑している道路交通へのさらなる負荷をかけるなど（LRT導入は）さまざまな課題がある」と慎重な姿勢に徹した。（野間あり葉）

▲3月19日　西日本新聞　朝刊

② 政治活動

今季も頑張りました！
田中事務所第30期インターンシップ！

▲稲富修二さんのラジオ番組にも参加！

大学生の春休みにあたる2月から3月にかけて、今季も田中しんすけ事務所では議員インターンシップに参加する大学生4人（第30期生）を受け入れ、様々な活動を経験してもらいました。

議会傍聴はもちろん、地域の町内会や商店街の活動にも参加、また、政治広報活動の一環として、ラジオ番組の収録や動画の制作、チラシ作成も手掛けてもらいました。

とりわけ、今期の学生が最も力を入れて取り組んだのが、30年後の福岡市の未来を見据えて政策提言をする「未来自治体」という政策研究プログラムです。今期の学生は**『ウォーカブルシティ福岡～道路を「車」から「人」へ開放せよ!～』**というテーマで具体策を検討・発表し、見事に福岡県大会で優勝を果たしました。

一人ひとりの
輝きが集い、
さらなる力に。

▲みんなで街頭演説@天神ソラリアステージ前

田中慎介
1978年6月14日生(43歳)

西高宮小学校　卒業　1991年
西南学院中学校　卒業　1994年
筑紫丘高等学校　卒業　1997年
九州大学法学部　卒業　2001年
早稲田大学大学院　修了　2004年
アクセンチュア(株)　入社　2004年
福岡市議会議員4期　当選　2019年

田中しんすけ　検索

〒810-0014 福岡市中央区平尾5-4-36 2F TEL:092-521-3650 FAX:092-521-5221 E-mail:info@tanakashinsuke.jp

田中しんすけ市政相談所